遠隔医療の取組み

JTECは、途上国の遠隔医療サービスの調査・普及支援、ならびに日本の医療技術・サービス・インフラの国際展開支援を実施しています。2つの国での取組み事例を以下に紹介します。

【インド】

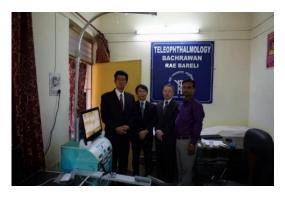
2018年度、JKAの補助金を活用し、インドの農村部での遠隔医療の成功事例を調査しました。 医療リソースが限られた中、<u>農村に医療サービスを届ける</u>ため、また、<u>医療スタッフの能力向上</u>のため遠隔 医療が貢献できることを確認しました。 (http://www.jtec.or.jp/free.php?id=113)



サンジャイ・ガンジー医科学研究所 (SGPGIMS) /ウッタル・プラデッシュ州



SGPGIMS を中心とした7つの遠隔医療重点医科大学



メディカル KIOSK



母子保健スマホアプリ



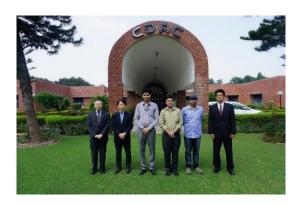
8つの紙台帳をアプリに取込み



サブセンタとヘルスワーカ



遠隔医療コールセンター研修



遠隔医療アプリ開発センター

【ミャンマー】

■ 遠隔医療教育支援

2017 年、海底光ケーブル(SEA-ME-WE 5)がミャンマーに接続され、国際間の高速通信が可能となり、遠隔医療教育の普及支援を開始しました。

2017年8月、ヤンゴン第一医科大学長は「日本の医療技術支援によりミャンマー人医師の技術力を向上させ、外国に治療に行けない95%の国民に高度医療サービスが提供できるようにしたい」と述べました。



JTEC ミャンマー・プロジェクトオフィスと九大病 院間の接続実験で手応えを得てヤンゴン第一医科大 学に九大病院との接続実験を提案 (2017.8.10)



ヤンゴン第一医科大学の会議室にて九大病院と遠隔 教育アプリケーションの接続実験を行い良好な結果 を得ました (2018.3.30)



ネピドーでの関係者会合により遠隔医療ワークショップ開催が承認されました (2018.7.31)



第1回ミャンマー遠隔医療ワークショップ (2018.12.21)

■ NCGM 事業(2019 年度)

概要: 国際医療開発センター (NCGM) の医療技術等国際展開支援事業のスキームを活用し、九州大学による「ミャンマーにおける医療水準の均霑化を目指した人材育成事業」を支援しました。

背景: ミャンマーの男女の平均寿命は短く、医師数も少ない。都市部と地方間で医療格差がある。医師の卒後教育の課題も山積。日本はじめ諸外国から多くの援助がなされているが移動に伴う限界は避けられず、各事業の終了と共に活動が制限されることが多い。

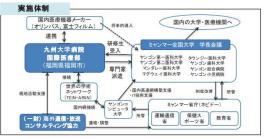
目的: これに対し近年飛躍的な発展を遂げる情報通信技術を活用した遠隔医療教育と本邦研修を組み合わせ、効果的効率的に医療技術向上を目指す(医師と IT 技術者を本邦研修・現地研修・遠隔研修で育成支援)。

報告書: https://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/tenkai/2020/tenkai2019_light.pdf









報告書から抜粋

■ NCGM 事業(2020 年度)

コロナ禍により、前年に続く「ミャンマーにおける医療人材育成事業」のオンラインによる実施を支援しました。

前年度事業に参加した 5 人の IT 技術者が、①保健省と全国の保健医療機関の間でコロナに関する情報収集・連絡、②医療サービスについての医師間の相談、にビデオカンファレンスの利用を促進しており、研修がタイムリーな社会貢献に繋がったことを確認しました。

2021年1月25日、ミャンマー医師会のオンライン・シンポジウムで日本の6名の医師(内視鏡内科・外科)が講演し、ミャンマー医師180名が参加しました。

ミャンマー人医師は内科・外科を中心に遠隔医療教育の価値を理解し、その活用に高い期待を寄せている。これらの医師と IT 技術者を中核人材とし、他地域や他分野への遠隔医療教育普及に向けた一層の注力が望まれます。

今後、JTEC は様々な助成スキームを活用し、途上国(都市と地方)の遠隔での医療教育や医療サービス、ICT を活用した生活習慣病予防に役立つ遠隔健康支援サービスなど遠隔医療の普及に貢献していきます。